

# 見直し機運が高まりつつある米ハイテク株の行方



シニア・ストラテジスト 石黒英之

## ポイント① GAFAM5社すべて減益は初めて

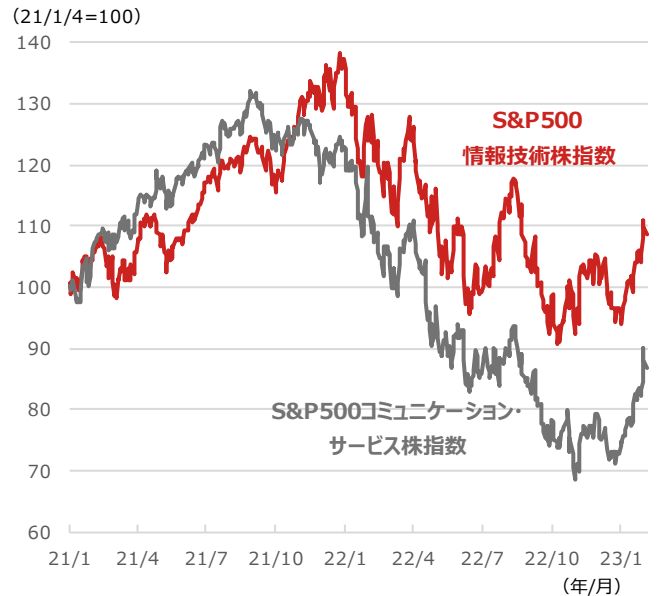
米ハイテク大手のGAFAM（グーグルの親会社のアルファベット、アップル、フェイスブックを運営するメタ・プラットフォームズ、アマゾン・ドット・コム、マイクロソフト）が発表した昨年10-12月期決算は厳しい内容となりました。5社すべての純利益が前年同期比で減益となり、これはフェイスブック（現メタ）が上場した2012年以降で初めてのことで、もっともこうした厳しい決算内容は事前に予想されていたこともあり、決算発表後も米ハイテク株の株価は全体的に大崩れするには至っていません（右上図）。今年に入り米ハイテク株への見直し機運が高まっていますが、今後もこうした動きは継続するのでしょうか。

## ポイント② 収益環境は今後徐々に好転へ

確かに米ハイテク企業の収益環境は厳しさを増しています。新型コロナウイルスの世界的な流行に伴う特需の反動や、世界的な景気減速の影響が業績を下押ししているとみられます。また、GAFAMの直近の従業員数は3年前より8割近く増えており、人件費を中心としたコスト負担増も業績の重しとなっていると考えられます。

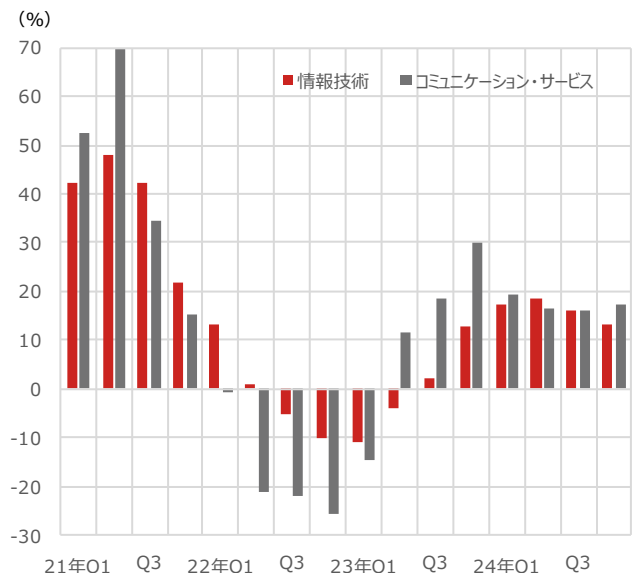
ただ、米ハイテク業種のEPS（1株当たり利益）は、今年前半まで減益局面が続くとみられていますが、その後は増益基調に回帰すると予想されています（右下図）。厳しい収益環境のなか、各社は人員削減に踏み切り、アップルを除く4社で合計5.1万人規模の削減計画を発表しました。今後はAI（人工知能）を始めとした成長分野の需要拡大も見込まれるなど明るい材料もあります。米ハイテク株の見直しが持続するためには、こうした取り組みが奏功し、収益環境が好転する兆しが今後の四半期決算で確認できるかが焦点となります。

## S&P500情報技術株とコミュニケーション・サービス株指数



期間：2021年1月4日～2023年2月6日、日次  
・アップル、マイクロソフトはS&P500情報技術株指数構成銘柄、アルファベット、メタ・プラットフォームズはS&P500コミュニケーション・サービス株指数構成銘柄  
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

## S&P500のハイテク業種のEPS前年同期比増減率



期間：2021年Q1（1-3月期）～2024年Q4（10-12月期）、四半期  
・2022年Q4以降は2023年2月3日時点のBloomberg予想  
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

個別銘柄の記載は、特定銘柄の売買などの推奨、また価格などの上昇や下落を示唆するものではありません。

\*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。